

製品名: ストラッドウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18407**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	46kDa

抗原情報

遺伝子名	STRADA
別名	STRADA; LYK5; STRAD; STE20-related kinase adapter protein alpha; STRAD alpha; STE20-related adapter protein; Serologically defined breast cancer antigen NY-BR-96
遺伝子 ID	92335.0
SwissProt ID	Q7RTN6
免疫原	抗血清はヒト STRAD 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 11-60

背景

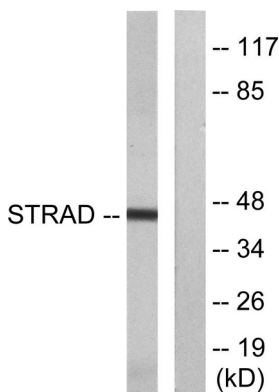
この遺伝子によってコードされるタンパク質は STE20 様キナーゼドメインを含むが、触媒活性に重要ないくつかの残基を欠いている

ため、「擬似キナーゼ」と呼ばれている。このタンパク質は、セリン/スレオニンキナーゼ 11 (STK11、LKB1 としても知られる) および足場タンパク質カルシウム結合タンパク質 39 (CAB39、MO25 としても知られる) とヘテロ三量体複合体を形成する。このタンパク質は STK11 を活性化し、両タンパク質のリン酸化を引き起こし、STK11 を核から排除する。このタンパク質は、STK11 誘導性の G1 細胞周期停止に必要である。この遺伝子の変異は、羊水過多症、大脳皮質症、および症候性てんかん (PMSE) 症候群を引き起こすことが示されている。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっている。追加の転写バリエーションが記載されているが、それらの完全長の性質は不明である。 [RefSeq 提供、2009 年 9 月],疾患: STRADA 遺伝子の欠失は、羊水過多症、大脳皮質症、および症候性てんかん症候群 (PMSE) [MIM:611087]の原因となる。罹患児は頭部が大きく、乳児期発症の難治性多焦点性発作と重度の精神運動発達遅滞を呈する。神経病理学的検査では、大脳皮質症、脳室拡大、細胞腫大、および白質の広範な空胞化とアストロサイトーシスが認められる。、ドメイン: このタンパク質キナーゼドメインは触媒活性を持たないと予測される。、機能: CAB39 と複合体を形成し、STK11 に結合して活性化する擬似キナーゼ。STK11 を核から細胞質へ再配置する。STK11 を介した G1 細胞周期停止に重要な役割を果たす。、類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。STE20 サブファミリー。、類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含む。、

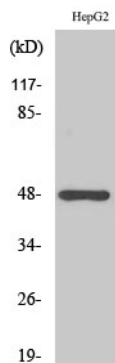
研究分野

mTOR; AMPK

画像データ



STRAD 抗体を用いた HepG2 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



Strad ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析